

保護者様
関係各位

令和4年3月吉日

みどりの学び舎
世田谷区立緑丘中学校
校長 高山 知機

令和3年度学校自己評価報告書

1 本校の目標及び方針等

（1）教育目標

- ・学ぶ意欲を育てる「自ら進んで学ぼう」
- ・優れた社会性、奉仕の精神を育てる「みんなのために働く」
- ・人間愛に充ちた心を育てる「豊かな心を育てよう」

（2）教育目標を達成するための基本方針

- ・全ての教育活動を通して人権尊重の精神を培うとともに、他の人を思いやる態度を育て、豊かな人間性を備えた人格の完成に努める。
- ・生涯学習の視点に立ち、基礎学力を身に付けさせるとともに、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対して求められる資質・能力の育成のために、あらゆる教育活動、教科等横断的な学習を充実させて、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、思考力、判断力、表現力など豊かな知力をあらゆる教育活動を通して育成する。
- ・豊かな情操をはぐくむ文化的行事及び体力の向上、心身の健康の保持増進を図る体育的行事へ意欲的に生徒を参

加させ、健やかな身体をつくるとともに、行事の運営に主体的に参加させることで自主性・創造性の育成を図る。生徒会スローガンの「一生懸命がかっこいい！」をさらに充実させ、所居意識を高めていく。

- ・地域とともに子どもを育てる教育を推進するため、学校協議会における情報発信を充実させ、家庭、地域との連携を深める。また、生徒の地域行事・地域ボランティア活動への積極的な参加を促し、郷土を愛する心と自己肯定感を育成する。生徒会のスローガンである「地域の方々との交流を深めよう」を実現する。
- ・いじめ、不登校生徒の教育課題に対応し、生徒一人一人の健全育成を推進するために、豊かな人間関係を育む指導を徹底するとともに、教育相談機能を整備し、教育相談の充実を図る。
- ・特別な支援を必要とする生徒に対する教育課題を明確にし、個に応じた指導計画に基づいた指導を推進する。
- ・生徒が自らの個性を理解し、たくましく生きる力を培うことができるようキャリア教育の視点から適切な支援を行い、生涯学び続けていく態度や進路選択能力の育成に努める。
- ・世田谷マネジメントスタンダードに基づき、職員一人ひとりの学校運営への参画意識を高めるとともに、学習指導要領及び世田谷区教育要領について理解を深め、指導の工夫・改善に努める
- ・生徒一人ひとりが安全に安心して学校生活を送れるようにするために、教職員全員で事故防止の徹底に留意しながら教育環境の点検・整備を行う。
- ・日本の文化・伝統を継承するとともに、広く世界に目を向け、国際社会の平和と発展に貢献できる、国際的な視野をもった生徒の育成に努める。
- ・教科等横断的な視点に立ち、教科「日本語」をはじめ全教科を通して、生徒のことばの力の育成の充実を図るとともに、教職員自らが美しい日本語を意識し、生徒と教職員の信頼関係が保てる言語活動ができるように努める。教科「日本語」の地域公開講座を実施し、意見交換を行って教職員の授業力向上に生かすとともに、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力とは何かを共有し、地域社会との連携を図る。

2 学校の概要

- (1) 校長名 高山 知機
- (2) 学級数第1学年4学級、第2学年4学級、第3学年3学級、計11学級
- (3) 生徒数 第1学年147人、第2学年140人、第3学年113人、計400人(令和4年3月31日付)
- (4) ホームページアドレスURL : <http://school.setagaya.ed.jp/tmika/>
- (5) 特色ある教育活動

- ①教科等では、(ア)英語科・数学科の少人数指導 (イ) 音楽のTT授業 (ウ)数学科の大学院生を活用した指導
(エ)大学院生による放課後の補習
- ②新聞を活用した教育活動の推進。(東京都NIE実践校8年目)
- ③体験的な学習活動の推進。
- ④特別活動(体育大会、学芸発表会、合唱コンクール)を通した意欲的に取り組む生徒の育成。
- ⑤地区委員会(三地域)と連携し、推進する生徒のボランティア活動、地域行事。
- ⑥生徒、教職員、保護者、地域とともにを行う各種環境工コに対する取組。
- ⑦地域の外部指導員による伝統文化(箏、日本舞踊)の学習。(コロナ感染症予防のため中止)
- ⑧地域と連携し、認知症サポーター養成講座、車イス・アイマスク体験、避難所訓練への生徒の参加などの取組。
(コロナ感染症予防のため中止)
- ⑨地域運営学校として、保護者・地域の方の学校運営への参画を推進し、保護者や地域の方の声を反映する学校運営を進める。
- ⑩「せたがや11+（プラス）」を推進し、小中の教員が交流をもち、連携を深める。

3 課題や問題点

(1) 教務部

- ・無理なく学校行事が実施されている。86. 4%

《改善策等》

開催時間など一部見直しや削減を検討する。

- ・生徒は主体的に行事に参加している。90. 9%

《改善策等》

コロナ禍のため、生徒が主体的に参加できる場面は少なかったが、そのような中でも工夫して実施していく。

- ・教育目標や重点目標は、生徒の実態、保護者の願いを活かしたものになっている。100%
《改善策等》
年度当初に配布する評価基準について保護者会で伝達しているが十分でないため、通知表ファイルの裏にプリントを入れていく。
- ・基礎的、基本的な内容の定着が図られている。90. 9%
《改善策等》
学習習得確認調査結果から各教科において課題等を分析して、校内研修で全教員が考える機会を得ていく。
- ・TT授業や補習教室は、生徒の学習習慣の定着に一定の効果を上げている。95. 5%
《改善策等》
研修部を中心に検証をしていく。
- ・学校からは必要に応じて十分な情報が発信されている。100%
《改善策等》
HP、学校だより、学年だより、すぐーる等で情報共有を継続していく。
- ・ICT情報教育は充実している。77. 3%
《改善策等》
教員用に一人一台割りあてられたことで、より良い授業つくりに役立っている。今後これからの時代で求められる教育を作っていく。

（2）進路指導部

- ・キャリア教育や職場体験が効果的に実施されている。92. 9%

《改善策等》

コロナ禍で職場体験が実施できなかったが、代案を考え地域の職業人から話しを聞く機会を設けた。

- ・進路にかかわる情報が適切に整理され、翌年に引き継がれるようになっている。95%

《改善策等》

進路説明会や進路だよりに使用する資料については、学校で共通する様式を継続・継承しながら毎年改善しながら引き継いでいく。

（3）生活指導部

- ・学校の教育環境は整備されている。81%

《改善策等》

冷房が効きにくく、夏には扇風機を併用しているが根本的な解決には至っていないため、今後も区への要望を継続していく。また、安全面では校内の施錠や、非常時に使用する器具等を今一度見直し整備していく。

- ・生徒の自主的、実践的な態度が育成されている。100%

《改善策等》

年々、中央委員会における生徒の発言や委員会での取り組みが活発化している。また、委員会活動では教員主導から生徒主導へと段階的に生徒の自主性を高める教育活動が実を結び、生徒の自治意識が高まっている。

- ・部活動の実施体制は適切である。71. 4%

《改善策等》

互いの部活動が譲歩しながら活動日や場所、時間を決めていく。また3年生の活動休止時期（運動部は夏季大会を区切り目として、その後は学習に集中させ、怪我を防止する）について生活指導部で確認を行い、周知徹底していく。